

## 東京版救急受診ガイド（Web版）の刷新について

東京消防庁救急医務課

## 1. 概要

東京消防庁救急相談センターでは、症状の緊急度判断や受診手段等に関する利用者からの相談に応じているが、特に休日や夜間など入電が集中する時間帯にトラフィック（取り切れない電話）が発生している。増加するトラフィックに対応するため、自ら症状の緊急度を判断できるツールとして、平成24年に「東京版救急受診ガイド」の提供を開始した。「東京版救急受診ガイド」は、日本救急医学会の監修によって東京都医師会が作成した救急相談プロトコルに準拠する59症例に対応しており、東京消防庁が運用している。

## 2. 現状と課題

救急相談センターの入電件数は増加傾向にあり、令和6年には受付件数、救急相談件数ともに過去最多であった。



## 救急受診ガイドの課題

- 多くの症状から該当するものを選ぶ選択式のため、緊急度判定まで時間を要する。
- 複数の症状に対応していない。
- 医療機関案内に対応しておらず、リンク先から再度検索する必要がある。



## 3. 機能検討

増大する救急相談需要に対応するため、デジタル先端技術を活用するとともに、緊急度判定から医療機関案内までを一本化した**利便性の高い「救急受診ガイド」**へ刷新する。

## 4. 開発概要・運用開始

新たな東京版救急受診ガイド（Web版）は、利用者の利便性向上に努め、シームレスに緊急度判定から医療機関案内までを行うシステムを構築した。昨年12月に実施したユーザーテストでは、現行の救急受診ガイド（平均操作時間5分51秒）と比較して平均**3分35秒の時間短縮**を実現することができた。  
 なお、**令和8年3月2日（月）9時**より、運用を開始している。

### 1 緊急度判定

年代、性別を入力し、症状をテキストまたは音声で入力すると緊急度判定結果が自動で出力される。

緊急度判定結果の表示に続き、赤は「119」、橙以下は「医療機関案内」のボタンが優先表示される。

### ※現行救急受診ガイドからの変更点について

- ①症状はテキスト又は音声で入力可能
- ②医療機関検索は現在地から直近順に結果を表示
- ③検索した医療機関へのルート案内が可能
- ④緊急度判定結果には一連番号が付与され、救急相談センターに継続して相談することが可能
- ⑤緊急度判定から医療機関検索までワンストップで完結

### 2 医療機関案内

上記①の症状に適応した診療科目ボタンが自動でチェックされ、スムーズに医療機関検索ができる。

検索結果の地図画面をタップすることでGoogleMapが起動しルート案内が可能になる。

※アクセス方法  
 下記URLからアクセスできます。  
<https://qq-jyushinguide.metro.tokyo.lg.jp/index.html>

右QRコードからもアクセスできます。

